

144 No. 6: マカオで大規模芸術祭りー益子焼も出品、魅力PR (令和元年8月27日)

マカオでは、本年6月から10月にかけて「アートマカオ」と題した大規模文化芸術フェスティバルが初開催されている。このイベントはマカオ特別行政区政府が主催し、6大カジノ・リゾートおよび各国領事館などが協賛、参加して行われるビジュアル・アートに関する祭典。「街全体が美術館」をコンセプトに、44の会場で展示会、アートセミナー、ワークショップなど40のプログラムが実施されている。



【アートマカオの様子】

中でも、マカオ芸術博物館における2つの大規模展示は、美術ファンのみならずマカオ内外の多くの人々から大きな注目を浴びている。

一つは、既に終了してしまっていたが、「イタリア・ルネサンス絵画展」で、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど、総勢42人のルネサンス期の巨匠たちの作品を含む大英博物館所蔵の52点が展示された大変豪華なもの。

もう一つは、「新時代の美～中国美術館所蔵 巨匠作品展～」で、中国の近現代芸術家たちの作品90点を展示。視覚障害のある人にも立体的感覚を体感できるよう3Dテクノロジーを駆使した作品も導入された。

こうした中、在香港日本国領事館も「Tap Sac Gallery」（塔石藝文館）に日本パビリオンを出展。9月22日まで、日本の文化と芸術をテーマにした展示を行っている。

日本パビリオンでは、凸版印刷の協力によるグラフィックポスター作品などの常設展示のほか、ポップアップイベントが複数開催されている。7月26日から8月8日まで開催された「日本伝統工芸品展」では、栃木県からはNPO法人Mashiko Ceramics and Arts Associationの協力を得て益子焼を出品、展示した。

日本伝統工芸品展では、益子焼のほか、有田焼、笠間焼、小石原焼などの陶器が展示されており、期間中、約2900人が訪れ、日本の陶器の美しさを堪能したという。中には、益子に行き、もっと多くの作品を見てみたいという来場者もあり、栃木県の観光パンフレットもあつという間になくなってしまった。

手軽に楽しめる日用品が多い益子焼だが、独創的なデザインや手法も加わり、芸術的な側面を持つ作品も少なくない。味わい深い益子焼を鑑賞しながら、自身の感性を磨く旅はとても魅力的である。

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。